



JSQC ニュース

No.304

発行 社団法人 日本品質管理学会
 東京都杉並区高円寺南1-2-1 (財)日本科学技術連盟東高円寺ビル内
 電話.03 (5378) 1506 FAX.03 (5378) 1507
 ホームページ:www.jsqc.org/

CONTENTS

- 1-トピックス ISO9000ファミリーの改正動向に伴う組織の対応
- 2-私の提言 大学院教育の質保証にむけて
- 2-ルポルタージュ 第349回事業所見学会ルポ
- 3-圓川隆夫氏デミング賞本賞を受賞/7月入会者紹介/デミング賞ほか
- 4-各賞表彰/行事案内/第40年度役員体制役割分担

ISO9000ファミリーの改正動向に伴う組織の対応

(有)福丸マネジメントテクノ 代表取締役 福丸 典芳

ISO9000ファミリーは、ISO 9001を含む品質マネジメントシステムに関する規格であるので、組織はこれらの改正動向を把握することで、これらの規格が組織に与える影響を事前に把握し、効果的な運営管理を行うことが必要である。

1. ISO9001:2008 (品質マネジメントシステム—要求事項)の動向

ISO9001は2008年に第4版として発行されているが、現在今回の改正に向けての検討が行われており、現時点では改正時期は2015年の予定となっている。この改正では、2008年版の改正時の検討課題として、いくつかの懸案事項への対応が行われる予定である。主な検討事項は次のとおりである。

その一つが、“Output Matters”である。これは、ISO9001が提示する品質マネジメントシステムは、要求事項を満たした製品を一貫して提供し、顧客満足を向上させるためのものであると適用範囲に規定されているにもかかわらず、現実にはISO9001に適合していると判断されていても要求事項を満たす製品を提供できないことがあるという問題提起である。

もう一つは、品質マネジメントの8原則である。この品質マネジメントの原則は、日本からJIS Q 9005:2005 (品質マネジメントシステム—持続可能な成長の指針)で規定してい

る12原則をISO9001:2008年版への改正に採用することを提案したが、2008年版は追補改正であったので、これについての検討は次回改正時へ持ち越しとなった。現在ISO9001は改正作業が開始されているので、組織はDIS (Draft International Standardization) 段階で改正動向の情報を入手することで、改正への対応を迅速に行うことが可能になる。

2. ISO9000:2000 (品質マネジメントシステム—基本及び用語)の動向

ISO9000は現在改正作業を進めており、2011年には改正される予定である。主な改正点は、箇条2の構造を品質マネジメントの原則に関する内容に改正すること、顧客満足及び論争の解決、構成管理、プロジェクトマネジメントに関する用語を定義することなどである。この改正では、組織に与える影響を考慮する必要はない。なぜならば、ISO9001で使用される用語の定義は、ISO9000:2005が適用されているからである。

3. ISO19011 (品質/環境マネジメントシステムの監査の指針)の動向

この規格は、第一者(組織が行う内部監査)、第二者(顧客が組織に対して行う監査)、第三者(審査登録機関などが認証のために行う監査)に関する監査の方法について示したガ

イドである。しかし、第三者は認証という行為を考えた場合には、監査の方法に相違点がある。このため、第三者に関する監査の要求事項として、ISO17021-2 (適合性評価—マネジメントシステムの審査及び認証を行う機関に対する要求事項並びにマネジメントシステムの第三者認証監査に対する要求事項—パート2:マネジメントシステムの第三者認証監査に対する要求事項)が制定される予定である。

従って、この規格は組織が行う内部監査及び外部監査に適用するとともに、他のマネジメントシステム規格にも対応可能なように、タイトルを「Guidelines for auditing management systems」に変更することで現在改正作業が進められている。

改正の主な変更点は、2002年版の箇条6 (監査活動)の一部を箇条5 (監査プログラムの管理)へ移動する、すべてのマネジメントシステムを対象とする、箇条7 (監査員の力量及び評価)にマネジメントシステムの共通事項を記載する、固有のマネジメントシステムに関する事項は附属書に記載することとしている。

この規格は要求事項ではなくガイド規格であるが、組織はこの規格を参考にして現在制定している内部監査に関する規程を見直すことが効果的である。なお、この規格のDISは2010.6.17に発行され、2011年度中にはIS発行予定となっている。

● 私の提言 ●

大学院教育の質保証にむけて

筑波大学 リスク工学専攻 伊藤 誠



私は、ヒューマンエラーや安全性に関する（相対的）若手研究者として本学会にお世話になっている。しかし、ヒューマンエラーや安全性という観点なら、私でなくても有益なご提言をされる先生は本学会にはたくさんいらっしゃる。せっかくの機会であるから、ここではあえて別の立場から発言してみたい。

私は大学教員である。大学・大学院では高等教育の質をいかに保証していくかが重要な課題となっている。座学が中心となる学部教育においては、質を保証する仕組みを作りこむことは比

較的容易である。本学会員の皆様には、JABEEという名前くらいは聞いたことがあるという方も少なくないだろう。これに対しMBAなどを除けば研究志向の色彩が強い大学院教育については、教育の質を保証するという議論はこれまで十分になされてはこなかった。しかし、大学院に進学する学生数が増大し、旧来のような徒弟制度的な教育ではうまくいかない事例が目立つようになってきており、大学院教育の質保証をどうするかという問題が、大学の教員に突きつけられている。数年前まではPDCAという言葉が大学の中心で耳にすることはほとんど皆無であったのが、今日では毎日のように目や耳にする。

大学・大学院における教育の質保証

という問題に対しては、文科省が非常に熱心に取り組んでいる。大学・大学院の教育改革に対して予算をつけたたり、大学・大学院の教育改革に取り組んでいる各機関を集めてフォーラムを開催したりしている。私の所属する専攻でも、教育改革のプロジェクトを実施したことがある。

ところが不思議なことに、大学・大学院教育の質保証の議論の様子を見ると、品質管理の専門家ほとんど関与していないかのように私には思える。モノ作りと人財育成とは全然別だといえばそれまでだが、これまでの日本型TQMが培ってきた考え方や手法は、うまく使えば大学・大学院の教育において有効に機能するものが少なくないのではないかと考えている。

大学・大学院の教育の質とは何か、その質を保証するとはそもそもどういうことなのかといったことを学会で検討し、積極的にアピールしていくというのはどうだろうか。

第349回 事業所見学会 ルポ

サントリー武蔵野ビール工場 「ザ・プレミアムモルツ のふるさとへ」

2010年7月14日、第349回事業所見学会がサントリー武蔵野ビール工場で開催された。標記テーマのもと、23名が参加した。

同工場は1963年にサントリー初のビール工場として開設され、各種ビールのほか、発泡酒や缶チューハイ、ノンアルコールのビールテイスト飲料などを生産している。特に、最近ではモンドセレクション3年連続最高金賞を受賞した「ザ・プレミアム・モルツ」の発祥の工場として注目されている。

見学に先立ち、サントリーグループの品質保証活動、TPM自主保全活動、ビールの製造工程についての説明があった。リスクとなりうる要因を抽出し、それを可能な限り低減することで、サントリーグループの品質方針である「All for the Quality」を実現し、従業員の自負心を養成するという考えに感銘を受けた。

見学では、ビール製造の工程を一通り巡ることができた。麦汁の香りが立ち込める工場内は、私の抱いていたイメージとは異なり、多くの設備において無人化・自動化された非常に近代化された設備であった。TPM自主保全活動で、「30年先まで戦える工場を目指し、全設備の自主保全を行う」を方針に掲げていることから同工場の意識の高さを伺い知ることができた。また、今回は、普段見ることのできないミニブルワリーも見学することができた。原料から醸造まで一貫した生産設備を備えた小規模のブルワリーで、商品開発や限定ビールなど多種多様なビールづくりを行っている。「ザ・プレミアム・モルツ」は、まさにこのミニブルワリーで開発されたとのことであった。

最後に、お楽しみの試飲タイムが設けられた。工場できたての「ザ・プレミアム・モルツ」は、ビールを注ぐグラスはもちろんのこと、温度、注ぎ方など全てが最高の状態で出され、感動もののおいしさであった。

サントリー武蔵野ビール工場では、一般の方々にも工場見学を開催している。ぜひ皆様も行かれることをお勧めしたい。

北林 寛史（財日本科学技術連盟）

圓川 隆夫・元本学会会長 今年度デミング賞本賞を受賞

第36、37年度本学会会長の圓川隆夫氏が、今年度のデミング賞・本賞



を受賞されました。同氏は、東京工業大学大学院教授として生産と品質のマネジメント分野の研究と教育に従事されております。同氏の近年の品質の研究では、顧客満足及び新商品開発の観点から、それぞれのパフォーマンスと企業の経営成果の因果関係の検証や国際比較を、独自のデータベースを構築し進められています。

また、現在、ブリヂストンの社外取締役、経営工学関連学会協議会会長を務められ、いままでも多くの国家的な産業政策に関する審議会・委員会の座長を歴任されてきました。このような活動を通じて、産業界への品質管理の普及

に大変貢献されました。

本学会会長就任時には、第35年度の櫻井正光会長の下で策定されました中期計画の実現に務められました。特に、本学会と品質関連団体（日本科学技術連盟、日本規格協会）との連携強化に尽力されました。学会としても、同氏が栄えあるデミング賞・本賞を受賞されましたことは大変、光栄なことであります。受賞おめでとうございます。



2010年7月の入会者紹介

2010年7月12日の理事会において、下記の通り正会員18名、準会員1名の入会が承認されました。

.....
(正会員18名) ○佐藤 まゆ (日本消防検定協会) ○白石 三智・半場 江利子 (日本パプテスト病院) ○矢島 隆志 (日露エコノミクスセンター) ○狩野 秀樹 (日本電気) ○加藤 晋悟 (全医療器) ○赤崎直美 (済生会兵庫県病院) ○劉 功義 (日本アイ・ビー・エム) ○入澤 朗 (中外製薬) ○坂根 正弘 (小松製作所) ○鎌田 智恵子 (東京医科大学病院) ○長谷 奈生己 (徳島大学病院) ○持田 和子 (日本医療伝導会 総合病院 衣笠病院) ○松原 淳也 (飛泉) ○高橋 祐司 (マン・ネン) ○根本 加代子 (根本眼科) ○岡原 邦明 (パナソニック) ○高橋 温 (東京電力)

(準会員1名) ○篠田 覚 (東京理科大学)

正会員：2551名

準会員：80名

賛助会員：159社185口

公共会員：24口

デミング賞委員会 (委員長 米倉 弘昌) において、2010年度の日本品質管理賞、デミング賞各賞、日経品質管理文献賞の受賞者が決定し、授賞式は11月10日経団連会館にて執り行われました。

1. デミング賞本賞

圓川 隆夫 氏 東京工業大学大学院 教授

2. デミング賞実施賞

株式会社コロナ 製造本部

株式会社メイドー

而至歯科 (蘇州) 有限公司

National Engineering Industries Limited (インド)

3. 日経品質管理文献賞 (文献名五十音順)

(1) 「開発・設計における“Qの確保” - より高いモノづくり品質をめざして -」
社団法人日本品質管理学会 中部支部 産学連携研究会 編

(2) 「サービス品質の見える化・ビジュアル化
- お客様の要求からサービス提供まで -」
金子 憲治 著

(3) 「新版 品質保証ガイドブック」
社団法人日本品質管理学会 編

(4) 「ソフトウェア品質会計
- NECの高品質ソフトウェア開発を支える品質保証技術 -」
菅田 直美 著

(5) 「シリーズ〈現代の品質管理〉3
統計的工程管理 - 製造のばらつきへの新たなる挑戦 -」
仁科 健 著

各賞表彰

第40回通常総会において、第39年度研究奨励賞2件、品質技術賞1件、ならびに品質管理推進功労賞6氏の授賞および表彰が行われた。

〔研究奨励賞〕

『2水準過飽和実験計画を用いたパラメータ設計』

松浦 峻氏 (青山学院大学)

〔品質〕Vol. 39, 4, pp. 92-103 (2009)

『作業要素を用いた業務の記述方法に基づく与薬事故の傾向分析手法の提案』

佐野 雅隆氏 (早稲田大学)

〔品質〕Vol. 40, 2, pp. 45-54 (2010)

〔品質技術賞〕

『レビュープロセスの継続的改善方式』

林 章浩氏 (元日本アイ・ビー・エム株)

〔品質〕Vol. 40, 3, pp. 71-80 (2010)

〔2010年度 品質管理推進功労賞〕

安藤 之裕氏 (資)安藤技術事務所

釜谷 佳男氏 (助)日本規格協会

瀧沢 幸男氏 日野自動車株

竹士 伊知郎氏 元(株)中山製鋼所

藤井 暢純氏 サンデン株

安田 義則氏 (株)豊田自動織機

行事案内

●第72回クオリティバブ (本部)

テーマ：何が製品やサービスをアフェクティブにするのか

ゲスト：梅室博行氏 (東京工業大学)

日時：2010年11月29日(月)18:00~20:30

会場：日本科学技術連盟
東高円寺ビル5階研修室

定員：30名

参加費：会員3,000円 非会員4,000円
準会員・一般学生2,000円
(含軽食・当日払い)

詳細：ホームページをご覧ください。

申込方法：本部事務局宛E-mailまたは
FAXにてお申し込みください。

●第1回 科学技術教育フォーラム

テーマ：科学技術立国を支える問題解決教育

日時：2010年12月27日(月)10:00~17:00

会場：成城大学 3号館 003教室

プログラム：

開催趣旨「世界が進める統計的問題解決教育の原点と新学習指導要領への期待」

鈴木和幸 (JSQC会長)

講演1：「新学習指導要領で目指すもの」
長尾篤志氏
(文部科学省教科調査官)

講演2：「科学教育における科学的探究能力としての統計的推理」
小倉 康氏 (国立教育政策

研究所総括研究官)

講演3：「国際調査にみる問題解決教育の重要性とわが国の課題」
西村圭一氏 (国立教育政策研究所総括研究官)

講演4：「理数事例の紹介 (紙ヘリコプター実験など)」
椿 広計氏
(応用統計学会会長)

講演5：「創造力・企画力強化への提言」
神田範明氏 (成城大学)

講演6：「統計的問題解決を進めてきた品質管理の現場」
瀧沢幸男氏 (日野自動車株)

講演7：「統計的問題解決法のポイントと問題解決事例」
鈴木和幸氏 (電気通信大学)

パネルディスカッション

座長：渡辺美智子氏 (東洋大学)

参加費：無料

詳細：ホームページをご覧ください。

<http://www.jsqc.org/q/news/events-list.html>

申込方法：下記よりお申し込みください。

<http://www.jsqc.org/q/news/2010/12/27/order59/order.html>

行事申込先

JSQCホームページ：www.jsqc.org/

本部：TEL 03-5378-1506

FAX 03-5378-1507

E-mail：apply@jsqc.org

第40年度役員体制決まる

会長	鈴木 和幸	電気通信大学
副会長	坂根 正弘	小松製作所
〃	棟近 雅彦	早稲田大学
理事	荒井 秀明	小松製作所
〃	猪原 正守	大阪電気通信大学
〃	岡原 邦明	パナソニック
〃	兼子 毅	東京都市大学
〃	神田 範明	成城大学
〃	鳥貫 静雄	アイシン精機
〃	鈴木 知道	東京理科大学
〃	田中 健次	電気通信大学
〃	椿 広計	統計数理研究所
〃	中島 宣彦	日本科学技術連盟
〃	中條 武志	中央大学
〃	西 康晴	電気通信大学
〃	仁科 健	名古屋工業大学
〃	平岡 靖敏	日本規格協会
〃	福丸 典芳	福丸マネジメントテクノ
〃	山田 秀	筑波大学
〃	渡辺美智子	東洋大学
学会理事	井口 新一	日本適合性認定協会
〃	鈴木 秀男	慶應義塾大学
〃	松浦 強	オリンパスメディカルシステムズ
〃	皆川 昭一	クラリオン
監事	釜谷 佳男	日本規格協会
〃	村川 賢司	前田建設工業
顧問	圓川 隆夫	東京工業大学
〃	大沼 邦彦	日立オートモティブシステムズ

第40年度役員役割分担表

論文誌編集	◎山田
学会誌編集	◎福丸
広報	◎西
事業	◎兼子
研究開発	◎椿
規定	◎平岡
会員サービス	◎神田 ○松浦
選挙管理	◎坂根 棟近 ○田中 荒井
庶務	◎田中 ○荒井
会計	◎中島
最優秀論文賞/研究奨励賞	◎棟近 ○山田
品質技術賞	◎坂根 ○福丸
品質管理推進功労賞	◎鈴木(和) ○田中 ○荒井
国際標準	◎鈴木(知)
総合企画	◎鈴木(和) ○坂根 ○棟近
研究助成特別	◎仁科
ANQ支援特別	◎鈴木(知) ○飯塚 ○山田
QC相談室特別	◎猪原
JSQC選書特別	◎飯塚 ○鈴木(和)
原子力安全特別	◎中條
運輸安全特別	◎中條
公益法人法対応特別	◎鈴木(秀) ○井口
TQE特別	◎渡辺 ○鈴木(和)
中部支部	◎山内 ○鳥貫 ○仁科
関西支部	◎岡原 ○猪原
ソフトウェア部会	◎渡辺 ○猪塚 ○香村
QMS有効性および審査研究部会	◎福丸 ○平林
医療の質・安全部会	◎棟近 ○水流 ○永井(庸)

◎委員長、支部長、部会長 ○副委員長、副部会長